

基本情報

| | |
|--------|----------------|
| 科目名 | 道徳教育の指導法 |
| 時間割コード | 0430901801 |
| 開講所属 | 看護福祉学部鍼灸スポーツ学科 |
| ターム・学期 | 2021年度 第2学期 |
| 曜限 | 他 |
| 開講区分 | 第2学期 |
| 単位数 | 2.0 |
| 学年 | 3 |
| 主担当教員 | 桑嶋 晋平 |
| 科目区分 | 卒業要件外の科目 要件外 |

担当教員情報

| |
|-------|
| 教員名 |
| 桑嶋 晋平 |

詳細情報

| | |
|-----------------------------|--|
| 授業の目的・到達目標 | <p>この授業では、学校教育において道徳教育をおこなううえでの基本的な知識や考え方を学び、その意義と限界についての理解を深め、道徳教育を実践するための基礎的な力を養うことを目指すとともに、道徳教育のあり方を批判的にとらえ、反省的に実践していく力を涵養することを目指します。</p> <p>そのために、この授業では、以下のことを目標とします。</p> <p>(1) 道徳教育をささえる、道徳・倫理の基礎的なことがらについて理解し説明することができる。</p> <p>(2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画などを理解し説明することができる。</p> <p>(3) 教材研究や学習指導案の作成および授業の計画を立て、実施することができる。</p> |
| 履修上の注意事項 | 授業の計画は、受講者の数およびニーズに応じて一部変更する場合があります。 |
| 評価方法 | <p>授業後の小レポート（30%）および学期末レポート（70%）の総合成績で評価する。</p> <p>基礎的なことがらへの理解の度合い、設問にたいする理解度および解答の妥当性、論理性におうじて評価します。</p> <p>なお、毎時の小レポートについては、次回授業で全体に向けてコメントします。</p> |
| テキスト | 教科書は使用しない。毎回の授業で使用する資料を配布する。 |
| 参考文献 | 参考書については授業ごとに適宜紹介する。 |
| 実務経験のある教員による授業 | 無 |
| 実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容 | |

授業計画

| |
|--|
| 授業計画 |
| 予習・復習については、毎時の授業で指示します（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。 |

| No. | 内容（担当） | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|---|---------|----|
| 1 | 受講ガイダンス / 授業全体の概要をしめす。 | | |
| 2 | 現代日本における道徳教育をめぐる動向 | | |
| 3 | 道徳・倫理とはなにか？ | | |
| 4 | 近代日本における道徳教育の歴史 | | |
| 5 | 戦後日本における道徳教育の歴史 | | |
| 6 | 道徳性の発達 | | |
| 7 | 近代家族としつけ・道徳 | | |
| 8 | 道徳教育と各教科、総合的な学習の時間、特別活動などのかかわり | | |
| 9 | モラルジレンマなどの読み物資料を活用した授業 | | |
| 10 | 構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニングなどの児童・生徒の活動にもとづく授業 | | |
| 11 | 道徳科における評価の諸問題 | | |
| 12 | 道徳教育の指導計画と指導案の作成 | | |
| 13 | 模擬授業とそのふりかえり（1） | | |

授業計画

予習・復習については、毎時の授業で指示します（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。

| No. | 内容（担当） | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|----------------------|---------|----|
| 14 | 模擬授業とそのふりかえり（2） | | |
| 15 | 授業のまとめと現代における道德教育の課題 | | |

基本情報

| | |
|--------|--------------------|
| 科目名 | 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 |
| 時間割コード | 0430901901 |
| 開講所属 | 看護福祉学部鍼灸スポーツ学科 |
| ターム・学期 | 2021年度 第1学期 |
| 曜限 | 木 2 |
| 開講区分 | 第1学期 |
| 単位数 | 2.0 |
| 学年 | 2 |
| 主担当教員 | 桑嶋 晋平 |
| 科目区分 | 卒業要件外の科目 要件外 |

担当教員情報

| |
|-------|
| 教員名 |
| 桑嶋 晋平 |

詳細情報

| | |
|-----------------------------|---|
| 授業の目的・到達目標 | この授業では、学校教育における特別活動の位置付けとその意義について基礎的なことがらおよび生徒の発達や成長にたいして特別活動の持っている多様な役割と可能性について学び、特別活動を実施していくための実践的指導力の基礎を形成することを目指すとともに、総合的な学習の時間にかんして、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価にかんする知識・技能を身に付けることを目的とします。 (1) 特別活動の意義、目標及び内容について理解し、説明することができる。 (2) 特別活動の指導の在り方について理解し、説明することができる。 (3) 総合的な学習の時間の意義や、指導計画の作成や指導の仕方について理解し、説明することができる。 |
| 履修上の注意事項 | 授業の計画は、受講者の数およびニーズに応じて一部変更する場合があります。 |
| 評価方法 | 授業後の小レポート(30%)および学期末レポート(70%)の総合成績で評価する。 基礎的なことがらへの理解の度合い、設問にたいする理解度および解答が妥当性、論理性におうじて評価します。 なお、毎時の小レポートについては、次回授業で全体に向けてコメントします。 |
| テキスト | 教科書は使用しない。毎回の授業で使用する資料を配布する。 |
| 参考文献 | (小・中・高)『学習指導要領 特別活動編』、(小・中・高)『学習指導要領 総合的な学習の時間編』 上記以外の参考書については授業ごとに適宜紹介する。 |
| 実務経験のある教員による授業 | 無 |
| 実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容 | |

授業計画

| |
|--|
| 授業計画 |
| 予習・復習については、毎時の授業で指示します(各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間)。 |

| No. | 内容(担当) | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|-----------------------------|---------|----|
| 1 | 受講ガイダンス/授業全体の概要をしめす。 | | |
| 2 | 教育課程における特別活動の位置付けと各教科などとの関連 | | |
| 3 | 学級活動・ホームルーム活動の特質 | | |
| 4 | 児童会・生徒会活動の特質 | | |
| 5 | クラブ活動・部活動の特質 | | |
| 6 | 学校行事の特質 | | |
| 7 | 教育課程全体における特別活動の指導 | | |
| 8 | 特別活動における取組の評価・改善活動 | | |
| 9 | 特別活動と生活指導、集団づくり | | |
| 10 | 特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携 | | |
| 11 | 「総合的な学習の時間」の意義と教育課程における位置づけ | | |
| 12 | 「総合的な学習の時間」の目標 | | |

授業計画

予習・復習については、毎時の授業で指示します（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。

| No. | 内容（担当） | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|------------------------|---------|----|
| 13 | 年間指導計画の作成における各教科等との関連性 | | |
| 14 | 単元計画の作成と具体事例の分析 | | |
| 15 | 総合的な学習の時間における評価の方法 | | |

基本情報

| | |
|--------|----------------|
| 科目名 | 教育方法論 |
| 時間割コード | 0430901101 |
| 開講所属 | 看護福祉学部鍼灸スポーツ学科 |
| ターム・学期 | 2021年度 第1学期 |
| 曜限 | 火 3 |
| 開講区分 | 第1学期 |
| 単位数 | 2.0 |
| 学年 | 2 |
| 主担当教員 | 嶋 政弘 |
| 科目区分 | 卒業要件外の科目 要件外 |

担当教員情報

| |
|------|
| 教員名 |
| 嶋 政弘 |

詳細情報

| | |
|-----------------------------|--|
| 授業の目的・到達目標 | 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法を理解する。 2 学習や学校生活における様々な場面に対する対応方法について理解する。 3 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用できるようになる。 |
| 履修上の注意事項 | 1 ペア・グループによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。 |
| 評価方法 | ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、課題発表20%、期末試験20%で評価する。 追試験は実施しない。 |
| テキスト | 使用しない。(毎回、学習プリント及び資料を配布する) |
| 参考文献 | 毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。 |
| 実務経験のある教員による授業 | 有 |
| 実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容 | 教員名 : 嶋 政弘 実務内容: 公立学校教員としての実績(35年) |

授業計画

| |
|---|
| 授業計画 |
| <p>前半は、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面(形態)及び改革等について学ぶ。後半は、指導案作成を中心に、発表会準備の過程で、視聴覚機器の活用方法について学習する。</p> <p>なお、事前・事後学修のうち、事前学修については、個人で行うことは難しいと考えるが、事後学習については、講義で疑問に感じたことや発展的なことについて調べることを指導する。</p> |

| No. | 内容(担当) | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|--|---------|----|
| 1 | 授業のねらいと展開の方法 | | |
| 2 | 教育方法の歴史 | | |
| 3 | 教育方法の歴史 | | |
| 4 | 教育方法の種類と特質 | | |
| 5 | 教育方法の種類と特質 | | |
| 6 | 教育方法の改革と課題 学力形成の方法論 | | |
| 7 | 教育方法の改革と課題 学習の形態と、教師と子どもの関係性 | | |
| 8 | 学習指導案の作成 作成の手順と内容 | | |
| 9 | 学習指導案の作成 単元(教材)の目標設定と指導計画 | | |
| 10 | 学習指導案の作成 各時間(本時)におけるねらいと授業準備 | | |
| 11 | 学習指導案の作成 学習展開(過程)における学習活動と指導上の留意点 | | |
| 12 | 教育情報機器の操作 教育情報機器の例とその効果 | | |
| 13 | 教育情報機器の操作 パワーポイントによるわかりやすいプレゼンテーションの作成方法 | | |

授業計画

前半は、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面（形態）及び改革等について学ぶ。後半は、指導案作成を中心に、発表会準備の過程で、視聴覚機器の活用方法について学習する。

なお、事前・事後学修のうち、事前学修については、個人で行うことは難しいと考えるが、事後学習については、講義で疑問に感じたことや発展的なことについて調べることを指導する。

| No. | 内容（担当） | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|----------|---------|----|
| 14 | 指導案発表と審議 | | |
| 15 | 指導案発表と審議 | | |

基本情報

| | |
|--------|----------------|
| 科目名 | 生徒指導・進路指導論 |
| 時間割コード | 0430901201 |
| 開講所属 | 看護福祉学部鍼灸スポーツ学科 |
| ターム・学期 | 2021年度 第2学期 |
| 曜限 | 他 |
| 開講区分 | 第2学期 |
| 単位数 | 2.0 |
| 学年 | 2 |
| 主担当教員 | 桑嶋 晋平 |
| 科目区分 | 卒業要件外の科目 要件外 |

担当教員情報

| 教員名 | |
|-------|--|
| 桑嶋 晋平 | |

詳細情報

| | |
|-----------------------------|--|
| 授業の目的・到達目標 | この授業では、生徒指導の意義や原理を理解するとともに、すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方および児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を学びます。それとともに、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それにむけた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けることを目的とします。 そのため、この授業では、以下のことを目標とします。 (1) 生徒指導の学校教育における意義や役割を理解し、説明することができる。 (2) 生徒指導が求められる諸問題について理解し、基本的な対応ができる。 (3) 校内外での連携のあり方について理解し、対応の方途をさぐることができる。 (4) 進路指導・キャリア教育の進め方について理解し、基礎的な実践ができる。 |
| 履修上の注意事項 | 授業の計画は、受講者の数およびニーズに応じて一部変更する場合があります。 |
| 評価方法 | 授業後の小レポート(30%)および学期末レポート(70%)の総成績で評価する。 基礎的なことからへの理解の度合い、設問にたいする理解度および解答が妥当性、論理性におうじて評価します。 なお、毎時の小レポートについては、次回授業で全体に向けてコメントします。 |
| テキスト | 教科書は使用しない。毎回の授業で使用する資料を配布する。 |
| 参考文献 | 参考書については授業ごとに適宜紹介する。 |
| 実務経験のある教員による授業 | 無 |
| 実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容 | |

授業計画

| 授業計画 | |
|--|--|
| 予習・復習については、毎時の授業で指示します(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。 | |

| No. | 内容(担当) | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|---------------------------|---------|----|
| 1 | 受講ガイダンス/授業全体の概要をしめす。 | | |
| 2 | 生徒指導の意義と目的 | | |
| 3 | 生徒指導の歴史的変遷 | | |
| 4 | 集団指導と個別指導 | | |
| 5 | 教育課程における生徒指導 | | |
| 6 | 児童生徒理解の意義と方法 | | |
| 7 | 課題を抱える児童生徒への指導 | | |
| 8 | いじめの実態と支援 | | |
| 9 | 不登校問題と支援 | | |
| 10 | 児童虐待の実態と支援 | | |
| 11 | 非行の実態と支援 | | |
| 12 | 生徒指導における教職員・保護者・地域・諸機関の連携 | | |
| 13 | 進路指導・キャリア教育の意義と理論 | | |
| 14 | 進路指導・キャリア教育の方法 | | |
| 15 | 職業・労働と学校教育のレリパンス | | |

基本情報

| | |
|--------|------------------|
| 科目名 | 教育相談（カウンセリングを含む） |
| 時間割コード | 0430901301 |
| 開講所属 | 看護福祉学部鍼灸スポーツ学科 |
| ターム・学期 | 2021年度 第2学期 |
| 曜限 | 他 |
| 開講区分 | 第2学期 |
| 単位数 | 2.0 |
| 学年 | 3 |
| 主担当教員 | 古賀 由紀子 |
| 科目区分 | 卒業要件外の科目 要件外 |

担当教員情報

| |
|--------|
| 教員名 |
| 古賀 由紀子 |

詳細情報

| | |
|-----------------------------|---|
| 授業の目的・到達目標 | 教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいのか説明できる。 |
| 履修上の注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後に次の授業内容を予告するので、それについて予習をしておく。（60分） ・授業の復習を行うこと。（60分） ・毎回授業の振り返りと質問等を最後に書いてもらうが、内容を確認し、次時に返却する。前時の質問に対しては、授業の最初に答える。 |
| 評価方法 | レポート20%、試験80%により評価する。 |
| テキスト | 特になし。随時プリントを配付する。 |
| 参考文献 | 「新しい学校教育相談の在り方と進め方 - 教育相談系の役割と活動 - 」栗原慎二著 ほんの森出版 |
| 実務経験のある教員による授業 | 有 |
| 実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容 | 古賀：養護教諭として公立学校勤務経験 豊永：教諭（教育相談担当）として県立高校勤務経験，スクールカウンセラーとして公立学校勤務経験 |

授業計画

| |
|--|
| 授業計画 |
| 授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分） 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。 |

| No. | 内容（担当） | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|---------------------------------------|---------|----|
| 1 | 教育相談の考え方、教育相談の位置付け、生徒指導と教育相談（古賀） | | |
| 2 | 児童生徒理解の基礎（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀） | | |
| 3 | 児童生徒理解の基礎（個別的理解とその方法）（古賀） | | |
| 4 | 包括的な教育相談体制（マルチレベルアプローチ）に取り組む（豊永） | | |
| 5 | 学級で実施できるSST（グループワーク）（豊永） | | |
| 6 | 学校で使えるアセスメントツール（豊永） | | |
| 7 | カウンセリングの理論と技法（豊永） | | |
| 8 | 認知と行動にアプローチする（認知行動療法）（豊永） | | |
| 9 | 資源にアプローチする（豊永） | | |

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分）
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

| No. | 内容（担当） | 事前・事後学修 | 備考 |
|-----|---|---------|----|
| 10 | 家族心理学（1）家族心理学の理論（豊永） | | |
| 11 | 家族心理学（2）教育相談への応用（豊永） | | |
| 12 | チーム援助と支援会議（豊永） | | |
| 13 | 教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀） | | |
| 14 | 教育相談の機関と支援ネットワーク（古賀） | | |
| 15 | 教育相談充実のための方策（古賀） | | |